

特253

804

昭和四年度業務功程報告

福島縣漆器工藝研究所



始





時253  
804

# 昭和四年度福島縣漆器工藝研究所業務功程報告

## 目次

發行所寄贈本

第一目	試驗研究調查及試作事項	一頁
一、	漆器木地製作ニ於ケル木工機械ノ適用範圍ノ研究並之ガ改良ニ關スル研究	
二、	木材ノ乾燥試驗	
三、	挽曲寸法調査並標準寸法ノ協定	
四、	試作	
第二目	見本品圖案配布	九頁
第三目	講習指導事項	九頁
第四目	出品事項	一四頁
第五目	審査事項	一六頁
第六目	質疑應答	二四頁
第七目	機械器具乾燥室其他利用許可	二六頁
第八目	出張事項	二七頁
第九目	一般觀覽人員	二八頁

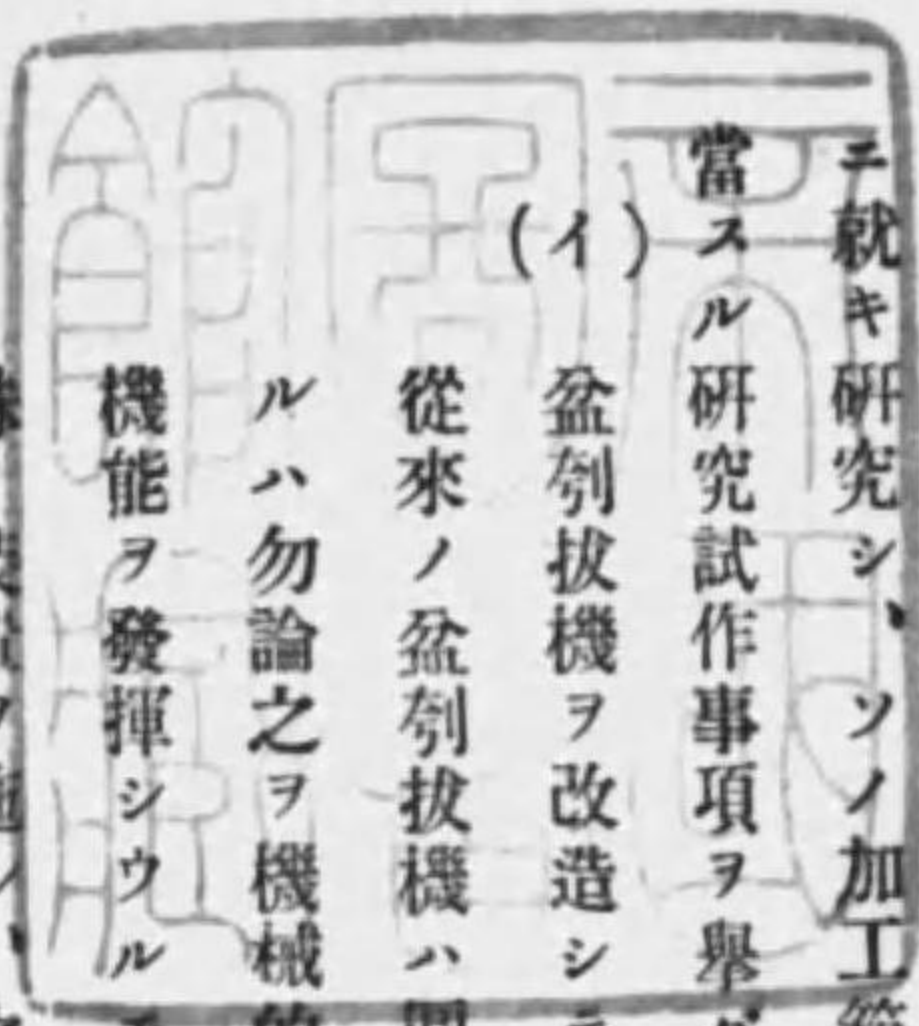




## 第一目 試驗研究調查及試作事項

### 一、漆器木地製作ニ於ケル木工機械ノ適用範圍ノ研究並之ガ改良ニ關スル研究

本研究ハ在來ノ手工ノミニ依レル漆器木地主トシテ板物木地製作法ニ加フルニ、之ガ製作ニ應用シウル木工機械ノ加工シウル適用範圍ヲ調査研究シ、合セテ之ガ機械ノ構造、裝置ノ改良、改造、或ヒハ取付及物ニ就キ研究シ、ソノ加工範圍ヲ擴大シ、十分ナル加工能率ヲ發揮セシメントスルニ在リ、左ニ本研究ニ該當スル研究試作事項ヲ擧グ



(イ) 盆刳拔機ヲ改造シテ楕圓盆ノ製作加工ヲナス裝置ノ研究並製品試作  
從來ノ盆刳拔機ハ圓盆及角盆ノミノ加工ニ適スル裝置ニシテ手工ニ依ル楕圓盆ノ製作ノ容易ナラザルハ勿論之ヲ機械的ニ容易ニ加工シ得ル如キ機械ナク、アリトスルモ之ヲ利用加工シテ充分ニ其ノ機能ヲ發揮シウルモノノ少ナキヲ以テ、茲ニ本所設備ノ盆刳拔機ヲ利用シ、一部ノ改造ヲ試ミ、特殊ノ裝置ヲ施シ、之ニ依リテ楕圓盆ノ製作加工ヲ試驗セシニ好成績ヲ收メ得タリ、從來楕圓盆ノ手工的又ハ機械的製作ノ困難ニシテ容易ナラザリシモ、該裝置ニ依リテ所要ノ製品ヲ加工シウルコトニ成功セリ、コノ裝置ニ依レバ尺二寸迄ノ楕圓盆ハ製作可能ニシテ之ニ從來ノ圓盆、角盆ノ刳削裝置ヲ併用セバ各種ノ變形盆ノ製作加工ヲモナシウルモノナリ。



(ロ) 盆刳拔機ノ及物ニ關スル研究

盆刳拔機ノ盆刳形成及物ハ在來ノ市販ニ在ル如キモノニテハ充分ナル機能ヲ發揮スルニ不完全ニシテ從ツテ刳削後ノ仕上ニ多大ノ時間ト勞力ヲ費シ、之ガ生産費ニ思ハシガラザルモノアリ、之ガ刳削及物ノ五、六種ニ就キ、研究試作ヲナシ、盆刳ニ適用セシモ未ダ充分ノ域ニ達セリトハ云ヒ難ク目下研究ヲ續行シツ、アリ。

(ハ) 盆刳拔機ニテ蟻溝(鳩尾溝)ノ加工ヲ施ス試験

本研究ハ盆刳拔機ノ盆刳及物ニ代フルニ鳩尾溝ヲ形成シウル及物ヲ研究試作取付ノ上之ニ依リテ一般家具指物類其他ノ蟻機接、吸付機接等ノ溝ノ加工ニ應用セシニ加工容易ニ正確ナルモノヲ得、成績良好ナリ

一、木材乾燥試験

本試験ハ漆器木地ノ破損ヲ防止スルタメ當所設備ノ乾燥室ニ依リテ煙燻法ヲ適用シテ之ガ乾燥材ヲ得ル方法主トシテ乾燥時ニ於ケル乾燥室内ノ溫度ト關係濕度、材ノ乾燥度、其他ニ就キ研究シ、最モ合理的ナル方法ニ依リ、之ガ乾燥材ヲウルヲ目的トスルモノニシテ主トシテ漆器木地タル朴材ノ三分二分等ノ薄板ニ就キ目下研究中ナリ。

三、挽曲寸法調査並標準寸法ノ協定

從來當地方ニ於ケル板物漆器木地ノ挽曲方法ハ大体ニ於テ或ル共通セル手法ニ依リ實施シ來リタリト雖モ尙各人各様ノ寸法ニテ之ガ挽曲加工ヲナシ、何等確タル規準ト見ルベキ寸法ノ協定ナク爲メニ如何ニ優秀ナル技術ヲ木地ニ加へ、上等ノ塗加工ヲ施シ、美麗ナル蒔繪裝飾ヲ施スト雖モ、一方之ガ會津ノ漆器製品トシテ内外ニ取引ヲナシ、一般市場ニ販賣セラル、場合之等製品ノ統一ヲ欠クトキハソレニ依ツテ生ズル損失ノ甚大ナルハ業者ノ均シク認ムル所ナリ、之ガ大量ニ取引セラル、場合特ニ然リ、然カモ從來實施シ來レル手工的挽曲ガ、漸次機械的の加工ニ進マント努力シツ、アル今日、即チ手工業ノ域ヲ脱シテ産業合理化ニ立脚セル大量生産的方法ニ出デシメントスル時ニ當リ、之等挽曲寸法ノ統一ヲ計リ之ニ依ツテ加工能率ヲ高メ、確實ニシテ整一ナル優良製品ヲ得且ツ價格ヲシテ一層底廉タラシムルハ不況ナル最近ノ會津漆器ヲシテ挽曲セシムルノ一端トシテ且ツハ將來アル會津塗ノ特徴ヲ益々發揮セシムル爲メソノ緊要ナルヲ思ヒ之ガ協定ノ準備トシテ業者ノ從來實施シツ、アリタル挽曲寸法ノ在リノ儘ヲ調査シタリ。

- 一、會 席 膳 ノ 部 四 十 一 名
- 二、宗 和 膳 ノ 部 二 十 名
- 三、淺 綠 盆 ノ 部 三 十 三 名



- 四、深縁盆ノ部 二十五名
- 五、加伏菓子器ノ部 三十八名
- 六、挽曲硯箱ノ部 二十七名

右ノ提出サレタル各種類ノ調査票ニ就キ之ガ全部調査ヲ遂ゲ、大体ノ標準ヲ得、合セテ他産地ノ考參トナルベキモノヲ加ヘ、技術上並取引上其他ノ事項ヲモ考慮シ茲ニ一原案ヲ作製シ、之ニ就キ本所當事者及合側各部ノ關係代表者トノ協議ノ結果茲ニ左記ノ挽曲標準寸法ノ決定ヲナシ、關係業者ノ協定ヲ見タリ尙今回決定セラレタルモノハ標準挽曲寸法ノミナラズ、之ニ密接ナル關係ヲ有スル厚サ、高サ、其他ヲモ合セテ協定セリ之ガ實施ニ關シテハ業者各位ニ於ケル一段ノ努力ニ俟ツノ外ナキモ之ガ方法トシテ該標準寸法ノ仕様書及挽曲定規ノ配布ヲ次年度ニ於テ行ヒ之レニ依リ製作加工ナリ或ヒハ製品ノ取引等ヲ確實ニ實行スルコトニ協定セリ。

本所ニ於テハ挽曲機完成以來關係業者ノ利用ヲ奨励シ、之ガ普及ヲ計リタル結果好成绩ヲ收メツ、アリト雖モ、一定ノ規準トナルベキ寸法ノ協定ナキタメ、種々ノ点ニ於テ業者ノ各人ニ付キテノ希望ニ添ヒ難ク十分ニ利用セシムルコト困難ナルモノアリタルモ今度ノ該標準寸法ノ協定ヲ期トシ、該寸法ニ依リテ何時ニテモ加工シウル様ノ施設ヲナシ、一般業者ノ利用ニ大イニ便ニシ、ソノ普及奨励ハ業者ノ自覺ト相俟ツテ益々ソノ成績ノ見ルベキモノアルヲ信ズ。

### 挽曲標準寸法仕様

#### 一、會席膳

種類	側板		底板厚サ	備考
	厚サ	挽曲部長サ		
尺三寸	二分六厘	一寸二分五厘	二分三厘	各項共仕上リ寸法ナリ
尺二寸	二分五厘	一寸二分	二分二厘	側板高サハ底板ヲ含ム寸法ナリ
尺一寸	二分四厘	一寸一分五厘	二分二厘	

#### 二、宗和膳

種類	側板		底板厚サ	備考
	厚サ	挽曲部長サ		
尺一寸	二分四厘	九分	二分二厘	各項共仕上リ寸法ナリ
尺五分	二分三厘	八分五厘	全	
尺二分	二分二厘	八分	全	

#### 三、淺縁盆



種類	厚	側	サ	挽曲部長サ	高	板	サ	底板厚サ	備	考
一尺	二分			一寸	一寸二分			二分二厘	二枚一組、大ト小トノユルミハ側板ノ厚サトス	
九寸	一分八厘			九分	一寸一分			二分	高サハ小ハ大ヨリモ各々五厘オチノコト	
八寸	一分七厘			八分	一寸			一分六厘	各項共仕上リ寸法ナリ	

### 四、深縁盆

種類	厚	側	サ	挽曲部長サ	高	板	サ	底板厚サ	備	考
九寸	一分八厘			九分	一寸			一分七厘	二枚一組、大ト小トノユルミハ側板ノ厚サトス	
八寸	一分七厘			八分	九分			一分六厘	高サハ側板ヲ含ム厚サトス 各項共仕上リ寸法ナリ	

### 五、加伏菓子器

種類	厚	側	サ	挽曲部長サ	高	板	サ	底板厚サ	備	考
六寸五分	一分三厘			六分	一寸七分五厘			一分七厘	厚サ挽曲ハ蓋身共同寸法ソノユルハミ側板ノ厚サトス	
六寸	一分三厘			五分五厘	一寸七分			通リ	山板ハ厚キコト 蓋ノ高サハ適當ノ寸法トス	

五寸五分	一分二厘			五分	一寸六分				各項共仕上リ寸法ナリ	
五寸	一分一厘			四分五厘	一寸五分					

### 六、挽曲硯箱

種類	厚	側	サ	挽曲部長サ	高	板	サ	底板厚サ	備	考
六寸形	一分二厘			六分	一寸二分			一分七厘	蓋身共全寸法ソノユルミハ側板ノ厚サトス	
五寸五分形	一分二厘			六分	一寸一分			全	各項共仕上リ寸法ナリ	
五寸形	一分二厘			五分五厘	全			全		

### 附記

一、今回ノ挽曲寸法ノ調査及協定ハ一般ニ多量ニ生産セラル、モノニ付キ撰定シ、會席膳、宗和膳、淺縁盆、深縁盆、加伏菓子器、挽曲硯箱ニ就キ調査協定ヲナセリ。

二、之ガ實施ハ昭和五年度ニ於ケル挽曲標準寸法仕様書及挽曲定規配布ト同時トセリ。

### 四、試作品



品目	數量
菓子器 (盆付)	五
卷蕒入 (盆付)	五
ビール盆	一
花瓶臺	二
楕圓盆 (刳抜)	五
角盆 (全)	五
丸盆 (全)	一
菓子器 (盆付)	五
肉池木地圖案	三
果物盛セット圖案	一
ビール盆圖案	一
花瓶臺圖案	二
卷煙草入圖案	一
菓子器圖案	二

第二目 見本品圖案配布

品目	數量
一、戸棚上飾木工圖案	三種
一、ランマ木工圖案	一種
一、家具圖案 (本棚)	二種
一、漆器木地圖案 (肉池)	三種
一、カマド設計圖案	一種
一、肉池木地	六点
一、カクテル盆	四点
一、カマド木型模型	一点
一、盆刳材應用角盆	二〇点

第三目 講習指導事項

一、試作品展示會



昭和四年五月二十五日日本所ニ於テ三年度ニ於ケル試作品ノ展示會ヲ開催シ、一般業者ノ觀覽ニ供シタリ。  
尙本所ノ作業狀況ヲモ合セテ觀覽セシメタリ。

### 一、設計製圖講習

本講習ハ圖案家又ハ設計家ノ養成ヲ目的トセルニ非ズシテ漆器木地製作實技ニ從事スル者ノタメニ必要ナル圖案設計製圖ノ一般的智識並技能ヲ授ケ之ガ理解力ヲ助ケ設計圖案ノ讀圖力ヲ養成スルヲ目的トセリ。

(イ) 會期 自九月二十五日 至十月六日 十二日間 夜間

(ロ) 講習科目

- 一、用器畫ノ初歩
- 一、設計製圖ノ常識
- 一、漆器家具ノ構成ノ要点
- 一、各地漆器產地ノ特徴ト其沿革
- 一、現代工藝ノ新傾向
- 一、器物ノ形狀ノ模寫製圖實修
- 一、文様ノ模寫實修

一、器物ノ創作設計製圖實修  
右講習終了者氏名三十六名

### 設計製圖講習會終了者

終了者氏名	職業	住	所
二 瓶 平 藏	店員	若松市下大和町八	菊地健次郎方
高 橋 繁 雄	惣輪	全 馬場下五ノ町二七	伊藤 七松方
成 田 弘	全	全 大町名子屋町	成田 元英方
五 十 嵐 平 治	全 蒔 繪	全 大町一ノ町六	市田 善吉方
木 村 定 八	全	全 紺屋町一八	田中 勝美方
加 藤 美 好	全 惣 輪	全 下五ノ町二七	渡部 春美方
渡 部 武 吉	全	全	全
川 口 熊 吉	全	全 甲賀町	安部 八郎方
渡 部 吉 春	全	全	全
佐 藤 市 郎	全	全	全
長 谷 川 峯 藏	全	全	全







會ハ實修ヲ主トシテ課セリ。

會期 自昭和五年三月十五日 六日間晝間  
至全 全 二十日

講習事項

- 一、木工機械ノ概要
- 一、木工機械ノ構造
- 一、木工機械ノ縱橫法並調節法
- 一、傳動裝置ノ概要
- 一、機械分解實修

右講習終了者氏名

川 上 忠	耶麻郡喜多方町
高 橋 繁 雄	若松市馬場下五ノ町二七
田 澤 幸 英	全 西名子屋町四二
内 山 市 太 郎	全 中六日町三六

### 第四目 出品事項

#### 一、商工省第十六回工藝展覽會出品

昭和四年自五月十五日 東京 自六月二十五日 大阪ニ開催セラレタル商工省第十六回工藝展覽會ニ當所ヨ  
至六月三日 日 至七月八日 日  
リ出セルモノ左ノ如シ。

一、桐材應用日本趣味ノ飾棚 一個  
右ハ本縣ノ特産タル桐材及漆塗、金工ノ技工ヲ巧ミニ取入レ日本趣味ノ富滿セル意匠極メテ清新ナルモノ  
ニシテ、褒狀ヲ受ケリ。

#### 二、漆工競技展覽會出品

昭和四年自十月十一日ノ三日間若松市公會堂ニ於テ開催セラレタル會津青年漆工會主催ノ第一回漆工競技  
至 十三日 日  
展覽會ニ參考品トシテ出陳セルモノ左ノ如シ

品 目	數	量
菓子器 (盆付) 木地		二
卷貫入 (盆付) 木地		二
挽曲機應用會席膳木地		一



挽曲機應用深縁盆木地  
 全 加伏菓子器木地  
 霰柄取機應用重箱木地  
 糸ノコ機應用ビール盆木地

### 第五目 審査事項

#### 一、家庭工業品展覽會審査

昭和四年自十月二十日 商品陳列所主催家庭工業品展覽會開催ニ當リ第二部ノ審査ヲナセリ本會開催ノ趣旨ハ近年著シク發達シ來リタル副業小工業ノ製品ヲ蒐集シテ比較考查ヲ加ヘ尙展示シテ工業的生面ノ擴張ヲ計ラントスルニ在リ、審査ハコレヲ技術ト販路トニ分チ、技術ハ圖構、配色、技術等ヲ、販路ハ價格、用途將來等ヲ考查採点ノ方法ヲトレリ。  
 左ニ之ガ各種類ニ付其審査概評ヲ示セバ左ノ如シ。  
 漆器……………出品數……………五十九点  
 家庭工業品トシテ優越ナル地位ヲ占ム、然レドモ出品物ニ就キテノミ觀察スレバ、技工ハ愈々練熟セルヲ

認メウルモ其他ノ器物、形狀、裝飾方面ニ於テ聊カ物足ラザル感ナキ能ハズ、宜シク取題範圍ノ擴張トコレニ適合セル意匠圖案ニ留意研究セラレンコトヲ望ム。

木工品……………出品數……………三十一點

簞筒、火鉢、茶棚ヲ主トシ、大同小異特ニ傑作ナキヲ遺憾トス、材料ト云ヒ其ノ利用法ト云ヒ相當ノ技術ヲ加ヘタルニモカ、ワラズ、總ジテ着色塗仕上ノ点ニ注意ト研究ヲ欠キタルタメ全然ソノ家具ノ品位ヲ殺ギタルモノ多シ、木工品ニ於テ本縣ハ東北ノ權威トシテ自他共ニ相許ス處當業者各位ノ自覺ト發奮ヲ促ス所以ナリ、

竹工品……………出品數……………二十七點

竹製品ハ一般ニ技工優レ、編ミ方着色等苦心研究セルモノト認ム、殊ニス、竹製ノ各種箆ハ家庭ノ必要品トシテ其堅勞ノ点價格ノ点ニ充分需要者ノ萬足ヲウル資格ヲ有ス、花籠等尙形狀編方ヲ研究スルト共ニ之ガ着色法ニ努力ヲ致サバ更ニ販路ヲ擴張シウヘシ。

籐製品ハ其形狀並骨組トナルベキ素材ノ構成ト編方ヲ研究シ、籐皮ノミナラズ、籐蕊及其他ノ蔓材ノ利用着色ノ研究ニ進マレナバ亦一工業品タルヲウベキカ。

履物……………四十六點

何レモ眞面目ニシテ製作技術モ苦心ノ跡歴然タルモノアリ、桐ヲ焼仕上セル庭下駄ハヨキ趣向ト思ハル尙



一層色相、形状、鼻緒等ニ研究ヲ加ヘラレンコトヲ望ム。  
玩具……………出品數……………十五点

コノ種ノ出品ハ三春駒、獅子頭、一刀刻ノ郷土玩具ノ外ハ見ルベキモノナシ、中ニ色彩ノ粗雜ニシテ一見キタナラシキ感ヲ與フル如キモノアリシハ十分注意ヲ要ス。

近時玩具類ハ一般ニ著シク藝術味ヲ加ヘ來リテ寧ロ大人ノ愛玩物タル傾向ニアリ、モトヨリ斯界ノ進歩ト稱シウベキモノ一面ニ於テハアクマデモ子供本位ノモノトシ、形状、色彩等ノ單純ニ表現シ、ヨク子供ノ遊ビ相手タル使命ヲ果シウルモノ、研究製作ニモ力ヲ盡サレンコトヲ望ム。

二、漆工競技展覽會審査

昭和四年自十月十一日 三日間會津青年漆工主催漆工競技展覽會ヲ若松市公會堂ニテ開催ニ關シ之ガ審査ヲ行ヒタリ。

出品者數及出品点数ヲ舉グレバ左ノ如シ

惣輪部	組合別		出品人數	出品点数
	獨立	徒弟別		
徒	獨	出品	八	二二
弟	者	數	一四	二四

板物部	丸物部		蒔繪部		圖案部		合計
	獨立	徒弟	獨立	徒弟	獨立	徒弟	
徒	獨	徒	獨	徒	獨	徒	九七
弟	者	弟	者	弟	者	弟	一六八
九	五	九	八	一七	三	一一	一一
一五	六	一九	一一	二一	六	一三	一一
三一	六	一六	一一	二一	六	一三	一一

外ニ參考品トシテ八点ノ出品アリ

右審査ノ結果特選賞四名、佳作賞八名、褒賞三十二名ヲ決定授賞セリ、左ニ之ガ各部類ニ付審査概評ノ要点ヲ舉ゲテ參考ニ資セン。

(イ) 惣輪部

一、木地形状ノ新ナルモノヲ作出セントスル努力ノ多分ニ認め得タルハ非常ニ喜ブベキ傾向ニシテ各



- 自ノ作品ニ就テ見テモ極メテ熟ノアル点ハ各部中第一ト云フモ可ナリ。
- 二、技術方面ハ年ト共ニ漸次改良苦心ノ点十分ニ認メウレドモ、中ニ材料ノ使ヒ方、構造等ニ於テ不合理ナ仕事ヲナセルモノ數点アリシモ大体ニ於テ良好ナリ。
- 三、形物(形ノ變リタルモノ)ノ平面、立体ノ形狀ノ約合、良否ノ感念ノ乏シク甚ダ變ナ形ノ出品モ見受ケラレシガコレヲハ十分ニ圖面ノ上ニ於テ考慮吟味シテ後製作ニ取リカ、ラレンコトヲ希望ス。

(ロ) 板物部

- 一、板物塗ノ方面ニ於テハ例年ト大同小異ナルガ變リ塗ノ石目、青銅等多數ノ出品アリシモ何レモ良好ナリ。
- 二、呂色塗仕上ノ中ニ下地ハ濫地ナランカト思ハル、モノアリシモ少ナクトモ呂色仕上ニスル製品ナラバ堅地カ銷地ニシテ相當ノモノヲ作ラレンコトヲ望ム。
- 三、出品物中、合口ノ甚ダ悪シキモノアリシモ、出品物ハ勿論、普通製品トシテモ合口ノキツバリト合致スルモノヲ作ツテ欲シイ。

(ハ) 丸物部

- 一、一般ニ漸次改良ノ点モ十分見ラレ成績良好ナリ。

- 二、出品物中ニ下地ニ於テ十分ナル出來映ヒヲ見セタルモ、上塗ヲ充分注意シテ塗ラザルモノモアリシ様ナルモ、コレハ原料即チ塗漆ニ不良ナルモノヲ用ヒタルタメ、外見甚ダ面白クナイ結果ヲ來セルモノアリ注意スベキナリ。

(二) 蒔繪部

- 一、技術方面ニ又取引方面ニ多クノ經驗ヲ有セラル、獨立者ノ出品ノ少ナカリシハ遺憾ナリ、コレニ反シ徒弟ノ眞面目ナル出品者ノ多カリシハ大變喜ブ所ニシテ成績モ概シテ良好ナリ。
- 二、彫漆(沈金類)ニ優レタル技工ヲ現ハセルモノ多數アリシモ中ニハ、圖案構成ノ思ハシカラズ、用途ヲ度外視シテ唯單ニ美シクアレバヨイトカ、蒔繪ヲ施セバ足レリト云ツタ様ナ考テ施工セル蒔繪モ見エタリ。
- 三、品物ニ相應セザル蒔繪ヲ施セルモノアリ、普通品ニ高等蒔繪ヲナス等ハ考慮ノ餘地アリ。

(ホ) 圖案部

- 一、着色ノ生々シキモノアリ、彩漆ノ描寫ハ今少シ良キ色相ヲ出シテ戴キタイ。
- 二、出品物中ニハ平面ノミ現ハシタルモノ多ク、品名サヘモ記入セザルモノアリ、コレ等ハ用途ヲ明記シ、模様ノ有無ニ拘ラズ、器物ノ全形ヲ畫カレルト共ニ、ヤハリ平面圖、立面圖等ヲ描キ一見



シテ如何ナルモノカヲ知リウル丈ケノ説明ガ必要ナリ。  
 三、一般ニ最新ナル模様資料ヲ畫カントスル努力ハ充分ニ看取セララル。

受賞者氏名

特選賞四名

惣輪部 渡部 春吉  
 板物部 田村 竹二

佳作賞八名

九物部 小椋 龜三郎  
 蒔繪部 折笠 英二  
 惣輪部 新國 忠太郎  
 板物部 藤田 善一  
 丸物部 鈴木 新二  
 蒔繪部 松崎 玄子  
 圖案部 江花 繁  
 久保田 大八  
 川口 熊吉

褒賞三十二名

板物部 肥田 野芳雄  
 内藤 幸助  
 國分 豊次  
 下平 喜代美  
 小林 貞助  
 大泉 留四郎  
 大泉 次夫  
 白川 貞一  
 鈴木 孫次  
 宇川 徳男  
 鈴木 徳次  
 高木 宗治  
 松坂 政次郎  
 關谷 喜一  
 井口 清作

板物部

丸物部

蒔繪部

圖案部

大關 善功  
 井口 清次郎  
 富澤 量助  
 菊地 武雄  
 玉川 榮一  
 和田 政夫  
 村上 仁太郎  
 桑原 平次  
 菊地 末雄  
 榎慶 二  
 廣島 信  
 鈴木 信太郎  
 肥田 野芳雄  
 内藤 幸助  
 國分 豊次  
 小林 貞助  
 下平 喜代美  
 小林 正治  
 大泉 留四郎  
 大泉 次夫  
 白川 貞一  
 鈴木 孫次  
 宇川 徳男  
 鈴木 徳次  
 高木 宗治  
 松坂 政次郎  
 關谷 喜一  
 井口 清作



## 第六目 質疑應答

事 項

- 一、シヤエヂ艶出法並之ガ研磨機ニ關スル件
- 一、ラツクニス塗工法ニ關スル件
- 一、ラツクニス溶濟ニ關スル件
- 一、木工機械ノ設備並ニ利用ニ關スル件
- 一、挽曲機及挽曲鋸ニ關スル件
- 一、木工機械ノ取付傳動裝置ニ關スル件
- 一、角孔機利用ニ關スル件
- 一、木工旋盤機、轆轤機選定ニ關スル件
- 一、桐丸火鉢製作加工法ニ關スル件
- 一、硬質漆器ベークライトニ關スル件
- 一、手工具選定ニ關スル件
- 一、手工用材ニ關スル件

件

一 二 五 二 一 一 一 四 四 一 六 一 數

- 一、蒔繪施工法並實技研究ニ關スル件
- 一、手工室用小型木工機械ニ關スル件
- 一、鉋ノ手入法ニ關スル件
- 一、漆器ノ修理方法ニ關スル件
- 一、ラツク目出シ塗工法ニ關スル件
- 一、曲木法及曲木機械ニ關スル件
- 一、ベニヤ合板接合濟ニ關スル件
- 一、擬木着色法ニ關スル件
- 一、木材乾燥及設備裝置等ニ關スル件
- 一、弟徒年期ニ關スル件
- 一、ラツクニスハクダツ法ニ關スル件
- 一、仕上機ノ成績ニ關スル件
- 一、木材着色塗仕上法一般ニ關スル件
- 一、參考圖書ニ關スル件
- 一、木材ノ打拔法ニ關スル件

一 六 一 一 一 一 四 二 一 四 一 一 一 一 二



- 一、膠ノ品質使用法適用法ニ關スル件
- 一、盆列拔機ニ關スル件
- 一、矧鉋臺ノ構造ニ關スル件
- 一、木型模型ノ製作ニ關スル件
- 一、木工機械仕様書ニ關スル件
- 一、玩具ニ關スル件

### 第七目 機械器具乾燥室其他利用許可

機械器具名  
 自動送平削鉋機  
 手押鉋機  
 圓鋸機  
 帶鋸機  
 糸鋸機  
 挽曲機

利用許可數  
 六二三  
 九一  
 三四四  
 一四〇  
 八五  
 一二五

面取機  
 霰取機  
 垂直角孔機  
 鉋及研磨機  
 砂紙研磨機  
 工器具  
 乾燥室  
 參考圖書

二五  
 四  
 一四  
 三三  
 三七  
 二三  
 八  
 七  
 一、五四九

### 第八目 出張事項

職別	行先地	要件	件數	日數
技手	東京市	商工展視察	五	五
技術員	東京市	商工展視察	五	五
全	東京、大阪、廣島市及宮島町へ	木工業視察及調査ノタメ	七	七



331  
151

第九目 一般觀覽人員

年 度	人 員
昭和三年度	三、七八九
昭和四年度	四、五七四

技 術 員	技 術 師	技 術 手	技 術 員	全 員	技 術 師	技 術 手	技 術 員	計
仙臺市	福島市	福島市	東京市	全	福島市	福島市	宮城、岩手、青森、秋田、山形ノ各縣下	福島市 (縣廳)
工藝指導所へ打合木工業視察ノタメ	家庭工業品展覽會審査ノタメ	所務打合セノタメ	豫算打合セノタメ	木材乾燥狀況視察及調査ノタメ	漆器木工業視察及調査ノタメ	所務打合セノタメ	所務打合セノタメ	
五	四	三	三	一	二	二	四	五二



終

